

学級数、生徒数、教職員数の変遷

■ 学級数、生徒数

生徒数は学級数の増加に伴い増加し、学級定数の変化に伴い減少してきました。

昭和22年度は1・2年生だけの2学級、男子43名、女子41名、計84名の生徒数でスタートしました。昭和23年から昭和29年までが3学級編成で、29年度の生徒数は男子92名、女子72名、計164名。

昭和30年度から1学年2学級へと変化し、昭和32年度に全学級2学級、合計6学級の規模となりました。その年の生徒数は男子153名、女子113名、計266名です。

昭和44年度全学級が3学級になった時には生徒数が男子219名、女子155名、計374名となりました。学級50名定数時代は生徒数が400名を越え、昭和48年度の406名、昭和49年度の404名が最高でした。

■ 教 職 員

昭和22年発足時、教職員は附属学校主事（校長）と本務教官2名で、師範本校や附属小学校等からの教官・事務官の兼務者を迎えていました。翌年の昭和23年度には、6名の陣容が整い、昭和24年度に7名となりました。

昭和31年度10名、32年度11名と学級数の増加に伴い教官数も増加しました。各学年3学級、合計9学級の規模に移行する昭和42年度からは、12名、14名、16名と増加し、ま昭和43年度から昭和61年度まで17名の時代が続きました。

昭和62年度からは教官数16名、平成20年度から主幹教員制度が始まり1名増となり、現在に至っています。